

跡見学園理事長 山崎 一穎



財政や教育体制の健全化を図り 生徒・学生や保護者の期待に応える 学園づくりを推し進めます

新 しい年がやってまいりました。学校教育現場は今、少子化の波を受けて、ますます厳しい状況にさらされています。私立大学の4割以上が定員割れとなっている中、本学園も教職員全員が一丸となって教育環境の整備・充実に取り組まなければ、生き残ることはできないと心を新たにしております。

厳しさを増す教育環境にあつて、生徒・学生の修学が円滑に行われるためには、財務状況が健全でなくてはなりません。ホームページでも公開していますが、本学園は昨年、校舎の耐震工事を実施したほか、防災関連設備の整備、学内サーバのアウトソーシングを行いました。また、長年の懸案だった中高の旧正門左手(旧西元医院)の土地を購入しました。そのため累積赤字は増えましたが、これは学園の教育環境をより充実に向けての先行投資だと考えています。

ただ、本来は赤字を出さずに運営していくことが理想であることは言うまでもありません。財政健全化と同時に、教育体制や教育内容についてもしっかりとチェックし、情報公開と説明責任を果たしていかなければなりません。そのためには、法

人・大学・中高が同じ目標に向かって進んでいく必要があります。人事交流などを積極的に行うことで、先例に拘泥せず、選択と集中を視野に改革を進めるつもりです。今後はさらに学園全体としての意思統一を図っていくべく、努力しなければならぬと強く意識しております。

さて、現在の大学の大きな使命の一つに、「地域貢献」があります。「開かれた大学」として、地域と密接な連携を構築していくことこそ、これからの大学が発展していくための大きな要素だと私は考えます。幸い跡見学園女子大学では近年、教員スタッフの尽力と学生たちの意欲的な姿勢が相まって、地域と連携した取り組みが活発に行われるようになっていました。新座キャンパスのある新座市とはもととさまざまな交流が展開されていたのですが、文京区とは、このほど災害時に乳幼児や妊産婦などのために本学の校舎を開放することで合意しました。福島県会津若松市とも、マネジメント学部のゼミナールの交流をきっかけとして、新たな地域観光振興のための取り組みが始まっています。現在、大学では新学部開設構想が立ち上がっていますが、こうし

た地域連携・地域貢献の取り組みが新学部の大きなヒントになるかもしれません。新学部を設置するに当たっては、キャンパスの再整備も必要となります。文京キャンパスに1〜4年次までを集中させるのがよいのか、新座キャンパスをどう生かしていくかなど、検討すべき課題は少なくありませんが、学生にとってベストな選択はどれか、これからじっくり考えていきたいと思っております。

中学・高校については、大学進学を意識した学力増進とともに、跡見の伝統である全人教育の継承も意識しながら、教育体制の充実化を図っていきます。現在、中学で行っているコミュニケーションスキルトレーニングを高校にも拡大し、STEM化することで、学園の教育目標である「自律し、自立した女性」の育成につながるべく考えています。

このような学園の教育的質的向上に向けた取り組みは、ホームページなどを通して逐次発信し、生徒や学生、保護者の皆様の期待に応えていく所存です。学園関係者の皆様には、本学園のめざすところをご理解いただき、一層のご協力を賜れば幸甚に存じます。